

みなさんこんにちは！

6月の定期健康診断に向け、少しでも体重を減らして結果を良くしたいと毎朝縄跳びをしている【T】です(^^)

昨年末、岩手日報の紙面で、小池昌代さんの「股旅日記」という記事を目にしました。小池氏は『泣く子ども』と題したエッセイの中で「泣き声というものを騒音としてとらえて、それに蓋をするようなところが私たちの社会にはある。声の意味にたどり着けなくとも、痛みや悲しみ、欲求を想像し、アプローチし続けることにこそ、大切な意味がありそうだ。」(『岩手日報』R1.12.10付)と書かれています。

我が家の息子2人(共に小学生)が「オギャー」と泣き、何かを意思表示していた時代はだいぶ過去のこととなってしまいました。当時の私にとって、長男が生まれ、初めての育児をしていて何が一番大変だったか。それは「なぜ君は今、泣いているの!？」ということを理解できず、なかなか正解にたどりつけないということでした。



そんな時は部屋の温度を上げ下げしてみたり、照明の色を変えてみたり、抱っこの向きを変えてみたり。そうそう、哺乳瓶の口を数種類買って試したこともありました。スーパーで買い物をしている時に泣き出してしまい、周囲の視線を集めてしまうことしばしば・・・。

当時は、この先どうなるのだろうと不安しかありませんでした。「あーでもない、こーでもない」と泣き声の答えを探して試行錯誤したことは大切なことだったのだと、小池氏のエッセイを読んで気づかされました。

今は「ググる」(検索エンジンの Google で調べることの意)という言葉ができてしまうほど、わからないことはすぐインターネットで調べられる時代です。しかしそこにあるのは「他の誰か」の答えにすぎず、ましてや自分にとって最良の答えであるという保証はありません。

子どもにかかわる全ての人達が自身の持つ想像力を最大限発揮して、子どもが泣くことの意味を想像してみませんか。(^^)【T】

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/
kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★